

## 第2回伊賀市総合計画審議会 議事録

<b>開催日時</b>	2022（令和4）年7月20日（水）9：30～12：00
<b>開催場所</b>	伊賀市役所4階 庁議室
<b>出席委員</b>	岩崎 恭彦（【1号委員】三重大学人文学部） 片桐 新之介（【1号委員】合同会社C.SSSコーポレーション） 西口 真由（【2号委員】公募委員） 大北 薫（【3号委員】伊賀市消防団） 奥西 利江（【3号委員】社会福祉法人維雅幸育会） 澤野 政子（【3号委員】男女共同参画ネットワーク会議） 船見 くみ子（【3号委員】公益財団法人伊賀市文化都市協会） 増田 政俊（【3号委員】伊賀市地域公共交通活性化再生協議会） 加納 圭子（【4号委員】 — ）
<b>欠席委員</b>	オチャンテ 村井 ロサ メルセデス （【1号委員】桃山学院教育大学人間教育学部） 朴 恵淑（【1号委員】三重県地球温暖化防止活動推進センター） 町野 真由美（【2号委員】公募委員）
<b>議事日程</b>	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）外部評価について ① 健康・福祉分野 ② 生活・環境分野 ③ 産業・交流分野 ④ 生活基盤分野 ⑤ 教育・人権分野 ⑥ 文化・地域づくり分野 ⑦ 計画の推進分野 （2）外部評価結果報告書の作成及び答について 4 その他
<b>議事概要</b>	1 <u>開会</u> （事務局）ただいまから、第2回伊賀市総合計画審議会を始めさせていただきます。  ★資料の確認 配付資料の確認。 ・事項書 ・伊賀市総合計画審議会委員名簿

- ・第2回審議会に向けての事前質問
- ・外部評価シート

#### ★会議及び議事録公開の確認

(事務局)

本日の会議は運営規程により、会議を公開し、会議の傍聴を認めている。本日の会議を傍聴される方、報道関係者の撮影等について、ご了解、ご理解をお願いする。

また、会議録についても公開させていただく。

#### ★会議成立の確認

(事務局)

「伊賀市総合計画審議会条例」第6条第2項に基づき、委員の半数以上の出席あるため、会議成立の確認。「当審議会条例」第6条第1項により、会長が議長となるとあるので、以下の進行について、会長をお願いする。

## 2 あいさつ

<会長> — あいさつ —

## 3 議事(1) 外部評価について

<会長> : では改めてよろしくお願ひいたしたい。これから外部評価を進めてまいりたい。膨大な宿題に取り組んでいただき誠にありがとうございます。既に事前にいただいているご意見の他に前回、外部評価シートの見方についてご意見やご質問をいただいた。事務局の補足説明から始めさせていただきたい。

(事務局): — 補足説明 —

<会長> : ありがとうございます。では改めて資料「外部評価シート」3ページをご覧くださいながら、評価の視点について再確認をさせていただく。3ページは「1 健康・福祉」分野。まず左から、「A 成果指標 (KPI)」、「B 事務事業の効果検証」、そして「C①まちづくりアンケート調査結果」とある。まず重視していただきたいのは「A 成果指標 (KPI)」とその進展度になる。KPIとして数値目標を設定しているので、客観的定量的な評価をしていただくという点がまず重要で、目標にどれだけ近づいているか、進展度はどのように評価できているかという点についてご覧いただきたい。ただ単年度の事業計画ではなくて、4年度毎での事業計画ということになるので、その目標が仮に到達できていないという場合は、それをどのように課題を洗い出して次年度の事業計画に反映させているか。そうした内部での評価が重要だと思う。その点で質的に見ていただくのが、「B 事務事業の効果検証」になる。

特に「A 成果指標 (KPI)」の進展度で「△」や「×」の評価がされているものについて、適切な課題の洗い出しが出来ているかどうか、それを踏まえた事業の見直しが出来ているかどうか、そうした点を「B 事務事業の効果検証」で見ていただくということが最も重要と思う。

それに加えて「C①まちづくりアンケート調査結果」の欄で満足度・参画度が低いということは、それ自体として課題があると思うので、その点も踏まえた事務事業の効果検証ができているかどうかというような参考資料として「C①まちづくりアンケート調査結果」は見ていただく、そのような指標になると思う。その「B 事務事業の効果検証」の欄でしっかりとした内部評価が出来ているというものについては適正なので、これについては特にコメントを記入していただくということにはならない。

特に適正な評価がなされていないものとして見直しが必要だというのは、具体的にコメントを記入していただくと良い。出来れば見直しが必要ということに加え、どのような角度から評価の見直しが必要なのかということについてもコメントをいただくと幸いである。

7つの分野について今日は外部評価を進めていただく。行政が行った内部評価が適切な評価になっているかどうか、評価として見直しが必要とすればどのような見直しが必要なのかということについてコメントをいただくが、時間にも限りがあるので1つの分野について、目安は15分で進めたい。

5分間事務局から補足説明をいただき、その後10分で皆様に記入をしていただきたい。記入の時間を10分とっているがその途中5分間程になったら、ご意見を伺わせていただく。記入を続けていただいても全然構わないが、もし、ご発言いただけるようであればよろしく願いしたい。

それでは早速始めてまいりたい。「外部評価シート」3ページをご覧ください。「1 健康・福祉」分野、ここについて事務局から何か説明があればお願いしたい。

(事務局)：— 「1 健康・福祉」分野の説明 —

<会長>： ありがとうございます。では早速10分程の時間をとって記入のほうを進めていただきたい。このシートかあるいはQRコードをあらかじめ配付いただいているので、そのQRコードでGoogleフォームに記入をしていただければと思う。では、よろしく願いしたい。

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

<会長>： 続けていただきながらということにはなるが、5分経ったので、もしコメントお聞かせいただけるようであれば、ご発言いただきたい。いかがでしょうか。

<委員>： 施策番号1-2基本事業「在宅医療」について質問をさせていただいた。成果指標の進展度が「×」で、その課題として、身寄りのない方が救急搬

送された際に、時間帯によっては帰宅手段が無く帰宅が困難になると挙げてある。まちづくりアンケートからも満足度・参画度が低い現状というのは市民が不安に思っている現状だと思う。それに対して、今後の在宅医療というのはどんどん高齢化が進んでいく中で、私達にとって必要なものなので、やはり市民が安心して暮らせる、今取り組んでいただいている各専門職種の連携した目に見える形での仕組みが質問の答えとして、市のイベントを通じての啓発、行政チャンネルや広報いがでの特集等とある。やはり市民が目に見える形態のリーフレット等回覧いただいたら、それによって1人暮らしの方でも困った時に心配せずにその在宅医療が受けられるシステムをこれから作っていく、そのような取り組みが必要だと思い、コメントに書かせてもらった。

<会長>： 他にいかがでしょうか。

<委員>： すみません。ちょっと的を得ていなかったら申し訳ないが、施策番号1-1「地域共生社会づくり」の基本事業「包括的な相談支援」の進展度「◎」について、この課題の文言に疑問がある。連携回数は増加して、相談窓口機能は十分果たしていくと思うが、課題の「虐待通報が多く優先的にそこに時間を割くため、虐待事案以外のことに時間を費やせない」ということが率直に書いていただいてあり、それで「計画通り進めている」というのは納得できない。やはり私は評価者として、寄せられた相談に対しては、生命に関わることは当然優先されることだが最善の対応を望むというのが率直な意見だ。

<会長>： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号1-3「健康づくり」の基本事業「生活習慣病予防及び重症化予防」の成果指標「特定保健指導率」について、目標値がそもそも15%だが、厚生労働省のホームページを見ると45%が国としての目標値で、この数字はちょっとあまりにも低いのではないかと思う。

<会長>： シートの見直しについても重要な評価ポイントなので、ご発言いただければと思う。

<委員>： 施策番号1-1「地域共生社会づくり」の基本事業「共助のしくみづくり」の成果指標「地域福祉ネットワーク会議開催数」について、開催数や回数が挙がっていて、その中で開催数がコロナの影響もあって少なく、またオンラインも使える環境の有る無しで地域差が出たとのことで、進展度が「△」になっている。内容として開催数もそうだが、開催した中身で何か評価できることがあればその分は効果検証のところで、新しい取組が出来た旨記入することで他の地域も取り組めるよう、効果検証されていくのも良いと思った。

それとアンケート結果については、傾向として39歳以下の参画度が低く、

年齢層が高くなると満足度が高くなるとのことで、これも良く分かるが、色々な主体が繋がっていく中で、若い方の参加も何か呼びかけていけるような仕組みが出来ればいいなど。そういった視点でお進めいただくと、計画通り進めている中で、進展度や回数だけでは読み取れない部分も評価できるのではと思った。

<会長>： ありがとうございます。施策評価シートで効果が出ている点で、具体的に何が出来たのかという所まで書くと良いのではないかというご提案、重要なご提案だと思う。

最終的に今日いただくコメントは、外部評価結果報告書に取りまとめさせていただく。この会議の場で直接ご発言いただいたものばかりではなく、紙に記入していただいたものも全てコメントとして掲載させていただく予定。是非紙の方の記入も続けていただければと思う。よろしく願いいたしたい。

では「2生活・環境」分野の方に進めたい。「1健康・福祉」分野は引き続き記入を続けていただいて結構なので、よろしく願いいたしたい。「2生活・環境」分野の方について事務局からの補足説明があればお願いしたい。

(事務局)：— 「2生活・環境」分野の説明 —

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

<会長>： では引き続き記入を進めていただきながら、コメントがあれば是非お聞かせいただければと思う。いかがでしょうか。

<委員>： 施策番号2-1「危機管理」について、進展度が基本的に「×」で、数値的に目標値はかなり高いなというのはあるが、それに対して事業の進捗が「やや遅れている」や「計画通り進めている」とのことで違和感を覚えた。目標値を高く設定しすぎるのもいけないが、担当課のこうしたいという思いもあるのかなと思う。ただその結果として目標値に達成しておらず、そこに対して「やや遅れている」というのはちょっと甘い判断とを感じる。もう少し危機感を持った結果を書いていただくと嬉しいと思った。

あと、施策番号2-3「安心な暮らし」の基本事業「消費者問題」の成果指標「消費生活相談件数」について、目標値が200に対して実績値が208と、件数が多いと達成かと少し疑問に思う。

<会長>： 指標がなかなか一律でない所が難しい。

(事務局)： そうですね。

<会長>： 上回ればいいものと下回ればいいもののがあり、その辺がもし可能であれば統一出来ると良いとは思いますが、またご検討いただければと思う。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<委員>： 先ほど委員がおっしゃられたことと同じになるが、例えば、施策番号2-1「危機管理」の基本事業「河川維持・改修」の成果指標「河川の浚渫事

業対応率」についても、目標値 80%という非常に高い目標を持ち、本当にこれは河川の氾濫で人命危機にも迫るので早急に市民が対応してほしいというニーズが非常に多いという中で、費用が膨大であるし中々進まない部分が多いというのはよく分かる。私の地域でも今浚渫工事が行われており、豪雨の危機に晒される中で非常に安心する市民も大変多いと思う。なので目標値は高く持たなければいけないが、やはり進展度が「×」というのは非常に頑張っていたのに、逆に市民の方が申し訳ないという気持ちもあるので、ニーズは高いが理由があって進まず「計画通り進めている」とのことなので、この目標値をもう少し低く設定するのも市民のニーズには反するのでいけないが、その辺今後4年間の中で理解を進めていただけるような啓発とかその部分で市民に対して、ちゃんと進めているからという安心感を与えていただけるような一言を評価の中に入れていただけると、しっかり頑張っておられるのでそこは評価できるのではないかと思います。

<会長>： ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号2-5「一般廃棄物」の基本事業「ごみの資源化」の成果指標「ごみ分別アプリ登録数」について、効果検証の課題が粗大ごみの話を書いてあり、それが「計画通り進めている」というのはどうしても読み込まないと分かりにくい。例えば進展度に関しては、登録者数が実績 12,550 とかなり増えたので、増えたということをまず一つ書いて、それ以外の課題としての粗大ごみのことを記載する。良かった所は良かったと、悪かった所はここだというような書きぶりのほうが見やすいと思う。

(事務局)： 今回この外部評価シートを作るにあたり、この「事務事業の効果検証の課題」の部分に何を施策評価シートから抜粋するか悩んだ。1枚の紙にまとめたもので皆さんに評価してもらうため、代表して施策評価シートの課題しか載せていない。これは次年度以降の課題になるが、それを今度から協議していただくためにどのような資料が必要かというのを、今、話を伺っている。

<会長>： ありがとうございます。是非最後の総括の所にこの評価のあり方そのものに対してのご意見もたくさんいただきたいと思うので、よろしく願いいたしたい。

<委員>： 施策番号2-4「環境保全」の基本事業「不法投棄の防止」の成果指標「不法投棄量」について、進展度が「◎」で「計画通り進めている」ということでごみが減少していると分かるが、それに対して課題で「同じ場所に不法投棄されるケースが多い」と挙げてある。私は名阪国道を通り中瀬インターで降りることがよくある。中瀬インターは名古屋方面から来た人が伊賀上野城へ行くのに必ず降りる所なのに、いつもものすごく汚い。交

通の要所が汚いと伊賀の町が汚いと他所から来た人は感じるもので、綺麗にしてごみが無い状態を保つのが大事。中瀬インターだけではなく他にも色々な場所があると思うが、ごみを捨てない環境づくりが必要だと思う。また不法投棄の看板についても、伊賀独自の看板を掲示する等工夫をして綺麗なまちづくりを検討していただきたいと思う。

<会長>： ありがとうございます。道路管理者が誰かという問題があるかとは思いますが、ただ市として何ができるのかということで検討いただくのは大事なことだと思う。他によろしいでしょうか。

<委員>： 施策番号2-1「危機管理」の基本事業「地域防災力・減災力」について、「地域において避難所設営が必要となるが地域間での温度差があり地域の理解が進んでいない」というところは、地域の自主防災が全然機能していないところが大変多いと思う。そのような所に力を入れてほしい。住民自治協議会の中に所属する自主防災だと思いが、その区長や役員は年々替わることも多いので、その辺も指導していただきたい。

あと施策番号2-2「消防・救急」の関係で、人口減少によって男性団員の定数を年々減らしていくという計画が進んでおり、その反面女性団員は逆に増やすという防災啓発に力を入れていこうとのことで、21名の定数で来年度は予定として31名に、10名増加の計画が進んでいる。その内救命講習で指導員にあたる応急手当普及員が7名、応急手当指導員が11名おり、私も指導員と共に活動させてもらっている。特に外国人を含めた救命講習がほとんど進んでおらず、外国人の指導員を希望している。そういったところも市をあげて入団促進を進めていってもらいたいと思う。

<会長>： ありがとうございます。「消防・救急」施策もかなり頑張ってください、且つ適正な評価で更に前向きな課題も出していただいている。こういう所はすごく適正だという評価ができると思うので、そうしたこともコメントしていただければと思う。

(事務局)： 事務局の確認誤りがあった。施策番号2-3「安心な暮らし」の基本事業「交通安全」の成果指標「人身事故数」について、R3年度実績値は2ではなく正しくは124なので訂正いただきたい。2は増加したという意味で進展度が「◎」から下がると思う。

<会長>： 後ほど見直していただくときにでも、評価をいただければと思う。それでは続く「3産業・交流」分野のほうに進めさせていただく。「4生活基盤」まで進んだら一旦休憩させていただく。それまで少し大変だがよろしくお願いたしたい。では「3産業・交流」分野について事務局から説明ありましたらお願いしたい。

(事務局)： — 「3産業・交流」分野の説明 —

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

<会長>： では引き続き記入を進めていただきながら、コメントがあれば是非お聞かせいただければと思う。いかがでしょうか。

<委員>： 全体として各分野で連携して施策を進めていただいていると理解をしている上で、例えば施策番号3-4「中心市街地活性化」の基本事業「市街地整備」の成果指標「中心市街地の人口社会増」について、実績値が「-6」で、これは中心市街地活性化計画を基に、毎年11人ずつ増やしていくという指標がある。人口が中心市街地で大体7000人ぐらい、その中のわずか11人を増やすためにいろんな施策が展開されている。たくさんの方が関わっているという部分については、やはり城下町の佇まいと文化、商業活動等を維持していく上では非常に大事な外せない施策だと市民も理解しているし、市も施策を頑張っていたに、この「-6」人という数字だけ見ると非常に残念で進展度が「×」になってしまう。それでも効果検証の中で評価できるということでコメントを入れられると、また更に次の活動に皆さんが頑張る勇気をいただけるのではないかと思った。特に参画度・満足度は、先ほどの事務局説明にもあったように非常に低いですが、ただ29歳以下の参画度・満足度については不満な人は2割を切っている。これは非常に明るい未来が見えているのではと期待を持ちたい。今後、この施策を進めていただく中でやはり若い世代層を巻き込む意識をもって、呼びかけながら是非とも引き続き実施いただきたい。

次の成果指標「空き店舗等活用件数」と施策番号3-6「就業・起業」の成果指標「起業数」との実績値が一致している。ここが少し気になっていて、起業・創業している人たちが中心市街地の空き店舗を使って市の補助金等を利用して、起業される方もいるということは連動していて、市の施策として地域を巻き込んで地域の支えがあつて起業者を増やしていくという地域課題を解決する、更に空き家・空き店舗も活用していただくと、施策としては非常に効率良くいろんなことが絡んでいく。ただ少し中心市街地以外の地域は、そういった方を開拓出来ていない。空き家・空き店舗も多いので、他の地域にも波及していくように中心市街地をモデルとしながら進めていけるような効果検証もされると良いと思った。

それから施策番号3-5「商工業・産業立地」の基本事業「企業立地」の成果指標「新規立地企業件数」については、企業が立地する際に企業に対して色々なインセンティブをつけていこうとのことで、今は製造業に限ったものになっているので、今後は製造業に限らない業種へのインセンティブをつけていこうという取り組みについて時代に即しており良いと思う。このことはその後の就労支援に繋がっていくが、求職者と企業の採用側とのミスマッチが起きている。これは伊賀地域に限らず、全国的に昔からの課題。これから製造業に限らない業種が増えていくことで、今までミスマ



ッチが起きていた部分が解消されていくであろうから、こういった所は個々の分野ではあるが、連携しながら進めているということも評価の中で「頑張っているよ」という姿勢をお示しいただけると、市民もそれに対して理解を深めていけるのではないかと思った。併せてこの分野は空き家対策や地域づくり、移住・定住、関係人口、若者会議や地域人材を育成している部署との連携を更に強化いただいて、オール伊賀市で頑張っているよという所も効果検証に一言添えいただくと良いと思った。

<会長>： ありがとうございます。色々な努力があるにも関わらず施策の満足度は低いということ踏まえ、色々な事業をしていることをどうやってこういう評価を含め見せていくかというところを意見いただいたと理解した。他にいかがでしょうか。

<委員>： 「3産業・交流」分野については色々と意見を書かせていただいた。1点大切だと思うのは、伊賀市はこれから「観光」をいかにしっかりと取り組むかというところが産業全体にもとても必要なことだと思う。施策番号3-1「観光」の基本事業「観光誘客と情報発信」でDMO形成支援にこだわっていらっしゃるようだが、私も観光等色々な仕事をする中で、DMOが全国的に上手くいっている事例はほぼ無い。なのでDMOにこだわること自体が少し勿体無いと思うので、それであればDMC。まちづくり会社等がしっかり日々活動するような所への支援の方が必要ではないかと思う。成果指標で「リピーター率」とあるが、率では無く、リピーターがどれだけいて、それをどれだけつかんでいるかというのが重要なはず。そうであれば考えられるのは観光協会がすぐにでも着手することだ。DMOを待っていないで是非取り組んでほしいとコメントさせてもらった。

あと施策番号3-2「農業」の基本事業「担い手の確保・育成」について、農水省が定期的に後継者有無のアンケートをとっている。そのアンケートに応じて、後継者がいないところをいかに行政も一緒になってカバーしていけるかが必要だ。そもそも担い手の確保育成は全国的にも非常に厳しい状態で、ある程度集約というところも見越していかないと追いつかないと思うので、その指標の導入も是非お考えいただきたい。

<会長>： ありがとうございます。サブ指標の設定について色々と具体的な提案もいただいているので、検討いただければと思う。他にいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号3-6「就業・起業」の基本事業「就労支援、職業相談」について、私は福祉施設で働いていて、色々な人の就労支援や、自分の法人でも色々な方が求職される中で、マッチングの問題だけではなく、その後の離職率はどうなっているのだろうと思う。離職や転職する人はたくさんおられる。例えばハローワークでも適性を分からずにご紹介だけされるとか。マッチングだけされるので、やはり継続して企業や事業所が人手を確保す

るのが問題だと思うので、求職者を適材適所に配置できるような質の高い職業相談であるとか、求職をされる人に職業教育的な仕組みが一つあれば、その問題は少し解消されると感じる。

<会長>： ありがとうございます。施策内容やさらにサブ指標の設定を含めた重要なご提案であったと思う。

よろしいでしょうか。時間の関係で恐縮だが、次の施策に進ませていただく。その後に休憩を若干挟みたい。それでは「4生活基盤」分野について事務局から説明があればお願いしたい。

(事務局)： — 「4生活基盤」分野の説明 —

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

(事務局)： 1ヶ所、進展度について誤りがあったので訂正いただきたい。施策番号4-2「住環境整備」の基本事業「空き家対策」の成果指標「空き家等数」の進展度で、目標値2,050に対してR3年度実績値が2,075なのに「◎」をつけている。正しくは「×」になる。

<会長>： それでは、引き続き記入を進めていただきつつ、コメントをいただきたいが、いかがでしょうか。

<委員>： もう少し視野を広げた観点で今回の記載については理解していただきたいと思う。やはり満足度や参画度が低いということと、今回のコロナ禍で利用者数が減ったというのは全く次元の違う話なので、これは少し切り離して見ていただきたいというのが一つと、あと、施策番号4-4「公共交通」で、実際にアンケート等で書かれている内容には、やはりもう鉄道だけで「電車に乗ろう」というような施策、例えばICカードを入れる、四十九駅を使おうとどれだけ言っても、先ず自分が家を出るときに車で行くか電車で行くかを最初に選択してしまう。ICカードがあるからと言って電車に乗ろうと言う人はいないと思う。そのためには、どちらかという、この四十九駅から市役所までの近道の歩道を付ける、安全に歩道のある所を歩いて来れるというようなことを政策の中に盛り込んでいく。これはどちらかという横断的な鉄道だけではない市の施策として、書くべきなのかなと考える。あと、例えば駅前に利便性が高い施設があれば、電車に乗ったらすぐ行けるというような、やはり人の意思決定の中に電車が組み込まれるような仕組みが、事業効果の部分について足りない感じがあるので、もう少し課題に、選ばれる鉄道を選んでもらえるような施策の実施指導ということ盛り込んでほしいと感じる。

あと満足度の傾向について、例えば30歳以上39歳以下の参画度が低いというのは、もうこれは明らかに自分で車で行く人達と思う。この参画度が低いことに対する対策、車に乗って行ってしまうことに対する対策はなかなか難しいと思うが、これらをどう見るかというのは我々の課題でもある。

今後の道路と鉄道のネットワークという観点で表現していただきたいと思う。

<会長>：ありがとうございます。

<委員>： 施策番号4-1「都市政策」の基本事業「コンパクトシティ・プラス・ネットワーク」について、これは都市計画の中でインフラも余り無駄なものを作らず、コンパクトにしているということで、小さなまちづくりで機能を果たし守っていきこうということだと思う。課題の「年度ごとに誘導率の差が大きい」というのがよく分からない。何故その差が出来るのかという根本的な所をもう少しお示しいただいた中で課題に向かうということで、効果検証の課題をもう少し補足説明していただければありがたい。

多分、対象施設を誘導する際にも地元の理解がないと来れないといったものもたくさんあると思う。今後の改善案の中には、都市マスタープランが改正されたことを地域の説明会でその運用を改めて周知していくということがあるので、そのこともあるかなと想像はできるが、もう少し補足いただけるとありがたい。

<会長>： 数値を設定して評価することの難しさをお二方からご指摘いただいたかなと思う。

やはり総合計画とかその評価は伊賀市がどういうまちづくりを目指しているのかということが見えてくるようなものでなければならないということだと思うので、そうした点も踏まえた、もう少し大きなものから見方から見た数値目標の設定とか評価についてのご要望を賜ったと理解している。ありがとうございます。

よろしければここで休憩を挟ませていただこうかと思うがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では後ろの時計で11時になったら再開をさせていただきます。

<会長>： そろそろ再開をさせていただきたい。よろしくをお願いします。

それでは「5教育・人権」分野について事務局から説明があればお願いいたします。

(事務局)：— 「5教育・人権」分野の説明 —

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

<会長>： 皆様からのコメントをいただきたいと思うがいかがでしょうか。

<委員>： 事前に質問した施策番号5-3「学校教育」の基本事業「児童生徒の支援」の成果指標「個別の教育支援計画・指導計画の作成割合」、「情報モラル学習を実施する学校の割合」について、私がお尋ねしたかったのは100%充足していることをあえて成果指標にしないといけないのかということで、どうもご理解いただけなかったようで、私もこの「個別の教育支援計画・

指導計画」や「情報モラル学習」が必要であることは十分理解している。言ってしまうと成果指標は単純にそれで良いのかと。何か意味があるかと思って聞いたが、どうも得られなかったというのが現状だ。

あと施策番号5-5「生涯学習」の基本事業「生涯学習」の成果指標「人材育成講座参加者数」に対して、課題でなぜ成人式のこと書かれているのか。どのように人材というか市民を育成するのか分からず、具体的な所を見ても読み取れなかった。

<会長>： ありがとうございます。100%到達できているものについて、維持困難な理由があれば指標になるがそうではなければ、指標として意味を成さないということだと思うので、また改めてご検討いただく必要があるかと思う。他にいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号5-5「生涯学習」の基本事業「図書館活動」の成果指標「図書館年間入館者数」について、大きく目標値に届いていない。そもそも利用者数を指標にしてどうかというところはある。知る限りだと香川県のまんのう町が、図書館の貸し出しを全自動化し、その分、司書が利用者に細かいアドバイスやいろんな話が出来るようになり満足度が飛躍的に向上したと聞いている。そういうところをぜひ見習ってほしいと思うので、やはり利用した人の満足度を何らかの指標に取り入れていただきたいと思った。

<会長>： ありがとうございます。

<委員>： 施策番号5-1「人権尊重・非核平和」の基本事業「男女共同参画」の成果指標「女性登用率」について、目標値を30%としている。それに対して、男女共同参画についていろんな事業をしていただいている。先日開催した男女共同参画フォーラム「いきいき未来いが2022」も、若者会議がいがまるエール等で発信したおかげでフォーラムは大勢の方に参加いただいた。これからも若い人たちを巻き込んで続けていただきたい。

年に1回開催しているイクボス講座も、イクボス宣言する企業や団体が年々増えてきているのは良いこと。今後もいろんな企業が参加してもらうように取り組んでいただきたいと思うと同時に、やはり、私たちの周りにはまだ古くからある性別役割分担の固定観念から抜け切らない現状で、それがこのアンケート結果にも出ているような気がする。29歳以下の若年層の満足度が比較的高いとのことで、やはり若い人たちはいろんな男女共同参画を勉強しているからだと思う。地域においてはまだまだその発信が浸透していないと感じるので、市から啓発や発信をしていただきたい。

<委員>： 施策番号5-5「生涯学習」の基本事業「青少年健全育成」の成果指標「体験事業参加者数」について、事前質問に挙げさせていただいた。実績値が計画策定時より大きく下がっているので進展度に「×」がついている。別の委員さんの質問にもあったように、数が減っているのはコロナの影響と

推測するが、そもそもこの減少は青少年を健全に育成していく側の団体が維持できるのか、存続が危ぶまれているのかと心配になる評価と感じる。今後その団体の支援についての検討も必要と書きぶりを変えてはいただいているが、何が核心なのかがよく見えないので、この評価だと市民がとても心配になるのではないかと危惧される。ちゃんと理由を述べて、更に団体も支援側も強化していく、そして参加者数も増やしていく、そうすることで青少年の健全な育成を図っていくということを評価の中で書いていただきたいと思った。質問の回答には効果検証と改善の欄を見直したいというふうに書かれているので、どのように変えたかというのはどのタイミングでいただけるのか教えていただき、そこを見た中でまた改めて評価をさせていただければと思う。

(事務局)： この施策評価シートに関しては案という形で提示させてもらっている。本来これを事務局で完成させたもので評価をいただく方が良いかもわからないが、今の我々の考えとしては一旦この施策評価シート案に対して外部評価をいただく。そして評価いただいたことも踏まえ、もう一回こちらで修正しそれを市の今年度版として完成させたい。繰り返し評価するのではなく、いただいた意見をどう受け止め、本年度直せることは直す、次年度以降の取り組みに反映させるならそうするというすみ分けをさせて欲しいと思っている。できたら今回で外部評価をまとめていただいて、もう一回事務局で作業をし、8月中には皆さんにこの外部評価の結果も公表させてもらい、市の完成版の施策シートも完成させるのようにしたい。

<会長>： その為に時期的にも急いでやっている所であるので、是非適切に評価・コメントも踏まえて見直していただくようお願いしたい。よろしければ次の施策に進めさせていただく。それでは「6文化・地域づくり」分野について事務局から説明があればお願いしたい。

(事務局)： — 「6文化・地域づくり」分野の説明 —

<委員>： — 「記入時間 ～5分～」

<会長>： 皆様からのコメントをいただきたいと思うがいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号6-6「定住・関係人口」の基本事業「地域人材育成」の成果指標「20～30代の転入超過数」について、これはものすごく高い指標を挙げているなというのが正直な所である。それで効果検証のところには若者会議の取り組みが出ていて、その方達の活動が直接その若者の流出抑制には好影響を及ぼしているまでとは言えないとあるが、この若者会議の人達がそういった非常に大きな課題を背負いすぎて押しつぶされないのかなと感じている。この若者の流出超過数を減らしていくということで大きな目標を掲げることはすごく良いと思うが、ここは何か若者会議の人達も高校生の人達と連携して、それぞれのどこと繋がればいいのか模索を続けながら自

主的な活動をされているのは、非常に評価できる。サブ指標として何が持てるかという所も問題だが、例えば若者会議と高校生が交わることで、この地域についての意識がどう高まったとか、もしそういうアンケート等をとっているのであれば、そういった意識の高ぶりだとかそういうのもサブ指標に持たれて、この活動を止めずにずっと続けていただき、長い目で見た中で高校生の子たちが大学に進学するなり就職とかで市外から流出されてもまた戻ってくるというような意識が見えるような効果検証をされると良いのではないかと思う。

<会長>： ありがとうございます。

<委員>： 先ほどお話があった若者会議に私は所属している。参加している者としてここは担当の方に申し訳ないが、事業の進捗として「計画通り進捗している」とは正直な所、そうは思えずもう少し厳しい目で見たいと思った。市役所の方が思っていた方がいい事が私たちに伝わってないというのがここを見て思ったので、そこをまず市の方がこういう意図をもってやってくれていることを、私たち活動する者としても理解しないとけないし、且つそこをしているということを若者会議だけではなく、若者世代全体が知ることが大事だ。そこが全く伝わっていないが故に地域人材育成というのは進捗していないと思った。

<会長>： すぐに効果が出る施策もあれば、これなんかは典型的にそうではない施策で、そういう施策の性格も踏まえた評価が必要だということについてご指摘賜ったと思う。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

<委員>： 施策番号6-6「定住・関係人口」の基本事業「移住・交流」の成果指標「相談を通じた移住者数」について、何か確固たる証拠や要因があるというわけでの発言ではないが、この移住者数について、この伊賀地域はもう少し見込めるのではないかと感じている。観光に力を入れるのも大事だが、移住者をもっと増やすような施策を考えると、移住者の生活や就労支援という周囲の環境を整えることで、例えば農業の活性化や起業とか、最近山の中で若い人がカフェをしたりというようなことも見かけるので、何かこの所で、もう少し手が打てれば、移住者を増やしていくことに期待ができる分野ではないかと思う。そういう意味ではコンシェルジュの方の人数であるとか体制の充実というようなところがもう少し見込めたら良いと思う。

<会長>： 指標の問題でいえば、累計で設定している指標も到達しているということで、今おっしゃっていただいたようにポテンシャルをかなり低く見積もっているという問題があるかと思う。ありがとうございます。他によろしいでしょうか。では最後の施策、「7計画の推進」分野について事務局から説明があればお願いしたい。

(事務局)： — 「7計画の推進」分野の説明 —

<委員>: —「記入時間 ～5分～」

<会長>: 皆様からのコメントをいただきたいと思うがいかがでしょうか。

<委員>: 施策番号7-5「デジタル自治」の基本事業「デジタルトランスフォーメーション」について、私はこれをずっとやっていて、まず多くの市民の方にとってデジタルトランスフォーメーションって言われて「それは何？」と思う方が多いと思う。ICTですらまだ理解されていない所もある中で、もちろんオンラインで申請するというのは非常に進めるべき所だが、それを全市民が出来るというわけではないし、デジタルトランスフォーメーションの根本の理由として、人がデジタル化によっていろんなことをやりやすくなるという話もあるので、例えば、市役所で待つ時間が削減されたとか、1回あたりの窓口対応時間が少なくなったとか、そういう所は市民がよりデジタルトランスフォーメーションを感じやすいポイントだと思うので、それらの指標もご検討いただきたいと思う。

<会長>: 本質的なご指摘かと思う。ありがとうございます。

<委員>: 施策番号7-3「組織・人事」の基本事業「行政組織の見直し」の成果指標「有効改善提案の割合」について、その提案基準というのは何かあるのかが少し気になった。例えば、最近 USB で話題になった尼崎市の件で、ああいうことが起きると、いろんな議員からちゃんと専門的職員が市役所内にいないからだと言われるが、それはそれで色々弊害があると思っている。キャリアデザインとしていいのかという話と、あとはずっと同じ人が同じ部署にいると不正の温床になりかねないという所が行政側がよほど気にする所だと思う。そういうことも踏まえてその有効改善提案の基準というのがもしあるのであればお聞かせいただきたい。

(事務局): ここで言っているのは、市役所内で組織改善の提案があつて、その内実現された数がどれだけだったかという割合を見ているだけだと思う。

<会長>: 時間もわずかとなってきたので、最後の総括のコメントや、1から7分野を通して記入漏れがある所や書ききれなかった所、そういう所についてのコメントを書き入れていただき、55分ぐらいを目途に一旦この時間を閉じさせていただこうと思う。これは今日提出していただく形か、それとも後日でも良いという形か。

(事務局): 出来たら今日ご提出していただけたら嬉しいが、もし時間内に書ききれないということであれば、何日かはお待ちしたいと思う。

<会長>: 分かりました。宿題を持ち帰っていただくのも心苦しいので、出来ればあと10分の時間で書いていただければと思う。よろしくお願いします。

<委員>: 評価というか意見みたいになってしまったが、事務局で取捨選択していただけるか。

(事務局): こちらで評価に当たる部分のコメントと、いわゆるアイデアとしての意

見を分けた形で整理させてもらう。個々の意見を全体の報告書の中にどう反映するかは、皆さんとお話ししながらという形になる。

<会長>： 時間も大分押してきたので、記入しながら耳を傾けていただければと思う。答申案のまとめ方について、ご相談させていただきたい。本日皆様からいただいたご意見については、基本的には評価の報告書に全て掲載をさせていただきたいと思う。それを評価のポイントになるようなものと更に諸々のご参考にしていただくような意見の一覧と、少し整理をさせていただくような形で取りまとめることを予定している。そして整理については基本的に私の方にご一任させていただければと思っている。事務局とも協議を進めながら、基本的には私の判断で最終的には意見を取りまとめさせていただければと思う。ご了承いただけますでしょうか。ありがとうございます。

後日取りまとめた報告書案については、案の段階で事務局から皆様に一覧いただくような機会を設けさせていただきたいと思うので、その時に何かお気づきの点などあれば事務局にお寄せいただくようよろしくお願いいたします。では、今日コメント記入していただいたこのシートは無記名で良いか。

(事務局)： もし書いていただいたコメントに対して、事務局で疑問点が出てきた時に後で問い合わせるため、名前を書いてもらう方が助かる。

<会長>： では、できれば記名の上ご提出していただきたいとのことで、よろしくお願いいたします。

本日の会議全体を通して委員の皆様から何かご意見ご質問等はございましたか。よろしいでしょうか。本日は大変な作業を長時間に亘っていただき誠にありがとうございました。あとは事務局に進行をお返すする。

(事務局)： それでは会長様・委員の皆様大変長時間に亘り、ご熱心にご議論いただき本当にありがとうございました。これをもちましてこの審議会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。